

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

<p>産業廃棄物処理計画書</p> <p style="text-align: right;">令和 4年 6月 21日</p> <p>愛知県知事 殿</p> <p style="text-align: right;">提出者                  住 所 愛知県田原市白谷町坂下55番地の1                  氏 名 田原生コン株式会社                  代表取締役社長 杉田鐘一                  (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)                  電話番号 0531-22-0185</p> <p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。</p>	
事業場の名称	田原生コン株式会社
事業場の所在地	愛知県田原市白谷町坂下55番地の1
計画期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	21：窯業・土石製品製造業
②事業の規模	生コン売上高：26,300万円
③従業員数	5人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>生コンクリート製造販売 (産業廃棄物発生フロー)</p> <pre>                 graph TD                     A[製造設備洗浄汚水] --&gt; B[スラッジ槽]                     C[生コン車洗浄汚水] --&gt; B                     D[戻りコン、残コン] --&gt; E[産業廃棄物 (ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず)]                     B --&gt; E                     B --&gt; F[脱水機]                     F --&gt; G[脱水ケーキ]                     F --&gt; H[上澄水]                     G --&gt; I[再生処理業者に委託し再生砕石として再資源化]                     H --&gt; J[上澄水槽 (循環使用)]                     J --&gt; H                     </pre>

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		
(管理体制図) <div style="text-align: center;"> <pre> graph TD     A[代表取締役社長] --- B[常務取締役]     A --- C[公害・安全・衛生委員会]     B --- D[工場長]     D --- E[総務課]     D --- F[工務課]     D --- G[品質管理課]     F --- H[産業廃棄物管理責任者]           </pre> </div>		
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
① 現状	【前年度（令和3年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	排出量	2,899 t
	(これまでに実施した取組) コンクリートくずについては、昨年より製造量が10%程度減少したが、排出量は30%程度増加した。(排出量30%増加) 生コンクリート発注者と事前の打ち合わせを密に行い、残コンや戻りコンの減少に取組んだ。	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	排出量	3,000 t
	(今後実施する予定の取組) 令和4年度は令和3年度より製造量は、増加する予定であり、排出量も増加すると思われる。排出量は出来る限り減少させる。 生コンクリート発注者と事前の打ち合わせを密に行い、残コンや戻りコンの減少に取組む。	
産業廃棄物の分別に関する事項		
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特になし	
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特になし	

## (第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 特に実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 特に実施する予定はない。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 特に実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 特に実施する予定はない。		

## (第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 特に実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 特に実施する予定はない。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	
	全処理委託量	2,899 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	t
	再生利用業者への処理委託量	2,899 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 令和3年度も、委託中間処理によって、再利用率100%となっている。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	
	全処理委託量	3,000 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	t
	再生利用業者への処理委託量	3,000 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 令和4年度も、最終処分量0 tを維持していく。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。